



「冰山ルリの大航海」出版25周年記念



理事 岡崎 淳

1998年、高円宮妃久子殿下（文）・飛鳥童（絵）、絵本「冰山ルリの大航海」が全世界（13か国語に翻訳）に出版され、多摩保育園でも表現活動の題材として音楽劇（ミュージカル）発表、タペストリー制作などに取り組むようになりました。

「小さな冰山である“ルリ”が、北極から遠い南にある大陸を目指し冒険の旅に出る。その途中で沢山の動物たちと触れ合いながら、地球の素晴らしさとそれを守ることの大切さを知り成長していく物語…」友情や勇気、地球環境がテーマで、当初、園児には難しい教材ではないかと感じていましたが、毎年続けて取り組むうちに、子どもたちも登場する動物や自然物が大好きになり、気持ちを共感し、それを表現する楽しさを感じるようになりました。当時の子どもたちは大人になり、親子2代でこの劇を経験した方もいます。今では、法人4園の年長クラス共通の演目となっています。

昨年度、出版25周年を記念し、全国各地で「冰山ルリの大航海」のイベントが開催されました。その一環として、一年ほど前から飛鳥童先生を通じて、原作者である高円宮妃久子殿下に、多摩保育園の子どもたちの25年間の歩みをお伝えしたいと申し上げたところ、願いが叶い令和6年1月15日に、高円宮妃久子殿下、飛鳥童先生をお迎えして、音楽劇とタペストリーギャラリーをご覧いただけることになりました。

まず、ストーリーと音楽の導入のため、大人による朗読コンサートを提供し、子どもたちは絵本の世界に触れます。日常でも絵本を読みながら登場する動物や自然、地理なども探究し、ストーリーの理解を深めていきました。また、表現の先生とともに表現遊びを繰り返す中で、子どもたちの感情や言葉、感性が織り込まれるようになりました。様々なことを夏から半年ほど掛けて準備をしてきました。

そして当日、高円宮妃久子殿下がご到着され音楽劇が幕を開けました。子どもたちは、自ら何かを感じていたようで、緊張もあったと思いますが、いつにも増して表現に力強さがある演技だったように感じました。

終演後、「今日は素敵な劇をありがとうございました。ずっと楽しみにしていました。ルリは子どものように思って大事に世に出して育てていくのをみてきました。多くの子どもたちに読んでもらい、色々なことを学んでいただいた。私にとってとても幸せなことです」「色々なものにチャレンジして、世界は広くて美しいところであること、みんなが周りの環境を守っていかなければいけないということを忘れずに、たくさんのお友達を作って、ありがとうって言葉を言ったり思ったりして、大きく成長してほしいと思います」と感謝と励ましのメッセージをいただきました。また、「ルリはどうやって氷になったのですか？」と子どもたちからの質問にも、微笑みながら優しく丁寧に答えいただきました。

子どもたちにとって、当法人・保育園にとって、一生の思い出に残る大変貴重な機会となりました。そしてこの絵本はかけがえのない大切な一冊であり、これからも子どもたちの表現活動を通して、物語のメッセージを50年、100年と伝え続けていきたいです。